

ダイライトコンテナ 取扱説明(ポリエチレン製)

コンテナの安全性を確保し、経済性をより高める為、下記の説明を十分ご理解・ご確認いただき、より良い環境でご使用下さい。

1 充 填

- 使用する前には、コンテナ内をよく洗浄してからご使用下さい。特に食品にご利用の場合は十分に洗浄の後、安全性を確認の上ご使用下さい。
- 耐薬品性を十分確認してからご使用下さい。
- 液温度50℃以内でご使用下さい。
- バルブレバーが閉じていることを確認した後にマンホール部、又はエア抜き部の蓋を開放して、コンテナ内が加圧されないようにして下さい。

2 液 出 し

- バルブを開く前には必ずマンホール部、又はエア抜き部の蓋を開放して、コンテナ内が減圧されない様にして下さい。
- バルブ開閉は手で行い、ハンマー等による手荒な操作は絶対にしなで下さい。
- 内袋式の場合は、エア抜き部の蓋のみ取り外して排出して下さい。

3 荷 役 ・ 運 搬

- 『フォークリフトは正しく使用して、作業して下さい。』
- フォークリフトの爪を慎重かつ充分差し込み、パレット全体を受けるようにして下さい。
 - フォークリフトの高速旋回・急発進・急停止・急昇降はしないで下さい。
 - フォークリフトの爪先を直接コンテナの側面にあてがって移動させたり、引っ掛けたりすることはしないで下さい。
 - 運搬時には、ロープでしっかり固定し、落下のないようにして下さい。
 - クレーン・ホイスト等での吊り上げ下げは、絶対にしなで下さい。吊り上げ下げが必要な場合は、別途ご相談下さい。

4 保 管 ・ 洗 浄

- 保管は凹凸のない平面を選び、傾斜面は避けて下さい。
- 段積みは空の場合は3段、充填後は2段までにして下さい。(外装枠部の腐食を十分ご確認下さい。)
- 高圧洗浄機で内面洗浄する場合の圧力は、自動洗浄装置でノズルを回転させながら、150kgf/cm²以下でご使用下さい。
- ポリエチレン製ですので、60℃以上の温度で洗浄しないで下さい。
- コンテナ内に入る場合は酸欠の恐れがありますので、換気を良くして監視人を配置して下さい。
- タンク天板上に乗る場合は、十分ご注意下さい。(タンク天板での作業が頻繁の場合は、足場を使用して下さい。)
- コンテナ内に無断で人が入らない様に十分管理して下さい。

5 点 検

コンテナの運搬安全性・経済性確保の為下記内容の点検を実施して下さい。

	項 目	方 法	点検時	異常時の処理方法	
コンテナ本体部	コンテナ本体に亀裂ヘアークラックがないか	内外面を目視にて点検	充填前	亀裂及びヘアークラックが発生している場合は本体を交換	
	重圧(バキューム)による天板の落ち込み・胴体凹み	内外面を目視にて点検	充填前 保管時 排出時	本体を交換する	
	部品	マンホールの内蓋・外蓋	●有無を目視点検 ●はめ合わせの適否 ●機能の確認	充填前・後	部品の調達・取り付け調整する
部品	エア抜きキャップ等	●有無を目視点検 ●はめ合わせの適否 ●機能の確認	充填前・後	部品の調達・取り付け調整する	
外装枠部	凹凸・破損・マーキング汚れ	目視にて点検	充填前・後	※補修ないしは交換	
	ボルト・ナットの緩み・脱落	感触・目視にて点検	充填前	補修ないしは交換	
	サビ・腐食	目視にて点検	充填前	補修ないしは交換	
液出口部	バルブ	開閉	手動にて点検	充填前	バルブを交換する
	亀裂・破損	目視にて点検	充填前	直ちに空にしてバルブ交換	
	漏れ	目視にて点検	充填中・後	補修ないしは交換	
	配管	亀裂・破損	目視にて点検	充填前	補修ないしは交換
	漏れ	目視にて点検	充填中・後	補修ないしは交換	
ダストキャップ	サポートの破損・脱落	目視にて点検	充填前	補修ないしは交換	
ダストキャップ	ダストキャップの破損・脱落	目視にて点検	充填中・後	交換	

※フレーム金属部に溶接加工する場合は、タンクを外してから行って下さい。

6 耐 用 年 数

- ※コンテナの使用条件及び保管条件により、タンクの劣化度及び外装枠部(フレーム)の腐食が異なりますので、コンテナ点検頻度を増し、安全性を確保してご使用下さい。
- ※毒劇物用コンテナについては、納入後5年間を限度として運搬に用いる事が可能です。